

生涯学習だより

隔月発行

第 120 号

題字：高橋正一

子育て講演会のご案内

北翔大学短期大学部子ども学科教授 矢花 やばな 司氏 つかさ 講演会

「上士幌の子育てに夢を持って～子育て八策～」

北翔大学短期大学部の矢花教授は、本別町出身で、北海道教育委員会の十勝教育局長も務めた方です。子育て論を専門としており、子どもを取り巻く環境が日々変化している現在、家庭だけでなく、地域でどのように未来を担う子どもに向き合えばよいのかを、「矢花流」と呼ばれる子育て術である「子育て八策」を中心にお話し頂きます。

子どもと関わる大人のあり方についてヒントを頂きます。下記の日程で行いますので、子どもを持つ家庭だけでなく、地域の皆さんのご参加をお待ちしております。

・日 時 平成23年2月25日（金）午後6時30分～午後8時

・場 所 生涯学習センター 新館2階視聴覚ホール

※詳細が決まり次第、町民の皆さんには別途ご案内いたします。

言語・教育研究集団主宰 安藤 修平氏 あんどう しゅうへい 講演会

「今どきの子どもとどう向き合うか」

安藤修平氏の講演会は、昨年も小中高連携推進会議・連合PTAが主催となり、保護者を対象に開催しました。『よみがえれ！テレビ脳っ子・ゲームっ子』や『ことばと出会い伝え合う教室—交信する子どもを育む』などの著書・監修書を多数発表されている安藤氏の講演を、今年も開催いたします。

今年は広く町民の皆さんにもご参加頂き、「ゲーム脳」という言葉を広げ、大人と子どものコミュニケーションの大切さを謳われている安藤氏のお話から、子どもと大人のより良い関係のあり方を探りたいと考えております。

・日 時 平成23年3月11日（金）午後6時30分～午後8時を予定

・場 所 生涯学習センター 新館2階視聴覚ホール

※詳細が決まり次第、町民の皆さんには別途ご案内いたします

平成22年度 子ども向け教室の紹介

平成22年度も、子ども達の健やかな育ちを願って、町民の皆さまの知恵や知識、技術をお借りしながら、少年会育成委員連絡協議会・生涯学習フェスティバル実行委員会・町教育委員会・町内の有志団体などが主催して多数の事業を実施してきました。その事業の全てを紹介することはできませんが、今月は、子ども向けに実施した「教室」をスナップで紹介いたします。

6月8日～7月1日（8回）子ども水泳教室



主催：上士幌町教育委員会

7月4日 親子釣りマナー教室



主催：フィッシング・ジョイ

10月27日～12月1日（10回）将棋教室



主催：少年会育成委員連絡協議会

11月21日 親子木工教室



主催：生涯学習フェスティバル実行委員会

12月26日～1月5日（3回）初心者スケート教室



主催：上士幌町教育委員会

12月27日～1月11日（3回）カルタ教室



主催：生涯学習フェスティバル実行委員会

夢をかなえるために
頑張っています！

上士幌町少年団特集 その2

今年度、117号（7月発行号）で本町の少年団を紹介しました。今月は、その時に紹介できなかった少年団の活動を紹介いたします。

柔道少年団 (指導者：川端さん 他4名)



格技場を拠点に、十三名の子ども達が汗を流しています。
柔道は、よく体格のことが言われるスポーツですが、「柔よく剛を制す」の言葉どおり、自分の努力次第で勝つことができるスポーツです。そのことを忘れず、「心・技・体」に磨きをかける稽古に取り組んでいます。柔道をおして、厳しい時代を生きていくため、「へこたれない心」を身につけ、「勝つための技」を習得し、「健康に生きるための体力」をつけること、これらは全て、日々の稽古次第であると考え、活動しています。

一月末には、初段昇格審査が行われます。

上士幌からは、三名の子どもが挑戦します。試合に勝つことだけでなく、級・段を目標に頑張ることができるもの、柔道の魅力の一つです。

スケート少年団 (指導者：杉山さん 他4名)



スポーツセンターの西側にリンクができると、そこを拠点として、三十名の子どもが練習に励んでいます。月曜日から金曜日まで、冬休み中は午前四時くらいから午後六時くらいまで、限られた時間ですが、少しでも速くなるために努力を重ねています。

入団している子どもたちの学年も、小学一年生から六年生までと幅広く、「授業で上手に滑れるようになりたい」という子から、「大会で自己記録を更新したい」という子まで、その動機は様々です。しかし、学年が上がるにつれて、「速く滑ること」を意識して、日々の練習に汗を流しています。

五名で活動をしています。小学生なので、技術的な向上を目指して難しい活動になつたり、つまらない活動にならないために、「テニスを楽しむ」ということを第一にしています。

夏季はテニスコート、冬季はスポーツセンターを拠点に、現在は小学生十五名で活動をしています。

テニス少年団 (指導者：長屋さん 他1名)



テニスは、大会などで勝つことを目的にすれば、楽しむことを目的にすれば、年齢が上がつても続けられるスポーツです。その点で、小学生の今は、中学生になつてもテニスを続けられるように、その基礎作りに重点を置いています。

技術の基礎だけでなく、「テニスは楽しいスポーツ」だという、テニスに対する思いを持つてもらいたいと思っています。

それいけ! 青年会 【その④】

こんにちは、青年会です

今回のそれいけ青年会では12月23日に行われた士幌青年祭、1月9日に行われた上士幌町の成人式のお手伝い、この二つの行事についてレポートしたいと思います。ではご覧下さい。

レポート1 士幌青年祭

私たち上士幌町青年会は12月23日に士幌町で行われた士幌青年祭に参加してきました。

士幌青年祭は士幌の青年団が主催するイベントで、これまで上士幌町青年会はバンド演奏やカラオケなどで出場してきました。今年はダンスをすることになり、『早寝早起き朝ごはん体操』『サラリーマン体操』の2種類のダンス？いや体操？（文章では表現できない体操）で出場することになりました。

本番の3週間前から本格的に練習が始まり、夜に集まり猛練習する日々が続き、その甲斐あって想像した以上の完成度に達することができました。当日はあいにく猛吹雪という最悪の天気でしたが、猛練習した体操を披露するため私たち一同は士幌へ向かい、会場で熱く踊ってまいりました！そして、今回はコンテスト方式だった為順位が発表され、なんと優勝という最高の結果を頂くことができました！

皆でなにかに取り組む楽しさを感じることができたとても充実した1日となったと思います。その晩には、毎年恒例となっている士幌青年団との打ち上げ兼交流会が開催され、緊張から解放された安堵感や達成感もあり、非常に楽しい宴となりました。

(記一齊藤)



レポート2 成人式

1月9日に行われた上士幌町成人式にて、私たち青年会はお手伝いとして参加してきました。受付や写真撮影などを担当し、新成人を迎えるました。



受付では出席者の確認作業やパンフレットの配布などを行い、写真撮影では新成人の写真を撮り、その場でプリントし配布をしました。また、式典では我らが青年会会长による、町民憲章の読み上げも行われました。大きなトラブル等も無く無事にお手伝いを完了できたと思います。若々しい新成人を見て自分の成人式のことを思い出し、懐かしい気分になった1日となりました。

今回のお手伝いが、大きな節目となる新成人の皆さまの思い出作りに、少しでも手助けになったなら嬉しい限りです。新成人のみなさん本当におめでとうございます。

(記一齊藤)

ナイタイ高原太鼓・響

きよう



高田 めぐみさん

事の始まりは、平成二十二年二月、上士幌で『乱拍子』の太鼓公演があつた時のことです。勇壮で躍動感ある動き、太鼓の音が体の奥まで響くその心地良さ…。「わあーすごい迫力。おばあちゃんたちが手を叩いて喜んでいる。上士幌にぜひ、昔の芸能を呼び起こしたい!」との思いから、学童保育所の是澤先生が『乱拍子』の方に、帰り際に声をかけたのがサークルの発端です。

私たちナイタイ高原太鼓・響は、平成二十二年五月から始まり、三歳から五十代までの約三十人で活動しています。やはり二月の公演を見て、「カッコイイ!自分もやってみたい」と思った方がほとんどです。仕事で疲れておっくうな時でも、太鼓を叩くとワクワクして気分爽快になる…。本当に不思議なぐらいです。

今年度の文化祭で、『村湯流八丈太鼓』を舞台で発表しました。最初は、習い始めたばかりで無理だと思つていましたが、子どもも大人も心を一つとすることで、大成功を収めることができました。

『乱拍子』の方は、札幌から月一回指導に来て下さいます。その他にもサークル独自で復習練習も行っています。興味のある方は、是澤(090-13898-13588)までご連絡下さい。

(担当—清原)

生涯学習しています

朱に交われば赤くなるって?本当?

山川 修さん (11区の2)



日本でやってきたことがどうなのか?そんな思いから海外で仕事をする機会を得て、飛び出したら常夏マレーシア(日本人学校)。赤道直下の国はいつも気温35℃。もがきました。3年間過ごすあいだ「日本の四季はいいよな」漠然と思っていたが、いざ帰つてみると寒さが辛い。本当に夏が恋しくなります。

同じ地域・国に住んでいると、そこが世界の常識と思ってしまいます。日本を離れ、生活しながら経験していくと「あれ?」と思うことが沢山あり、最初は自分の物差しが日本バージョンですから、不思議だったり許せなかったり…。「俺が手本を示してやる」といった具合です。でも、それも日が経つにつれ、そこに馴染んで、すっかり変化している自分に気がついた時は笑えます。

少し離れて、外から日本を見る事ができ、本当によかったなと思います。『朱に交われば赤くなる』を実感することになりました。

でも…、自分の物差しは必要です。自分で考えて判断、行動するのが人間ですから。生涯学習です。

●少し距離を置くことで、物事は違って見えてくることもあると体験された山川教頭先生。プリントの枚数などを確認されるときになごりが‥‥‥。

「one! two! three、one! two! three、」と数えられています。

(担当—山中)

バドミントンは「生涯」楽しめる「スポーツ」

三宅秀典さん (10区の2)



私がバドミントンと出会ったのは中学で部活動に入るときに、近所の幼なじみの先輩がいた、ただそれだけの理由でした。

それでも、始めるとどんどんはまついたのをよく覚えています。私が育った旭川市は、同世代にジュニア世界大会で優勝した選手がいたこともあり競技が盛んでした。高校では、選手として限界を感じ一度ラケットを置いた私ですが、大学でまたバドミントンを始めました。それは、サークルを通して選手としてのみならず生涯スポーツとしての魅力を知り、選手としての面白みの他にも楽しさを知ったためです。就職で十勝に来てから、スマッシュエンジェルスというチームを立上げ、中高生から社会人・初心者から全道選抜選手までが、入混じるチームに育っています。十勝協会役員としても活動し、永くこの競技と関わつていけたらいいなと思っています。上士幌町に来てからも、スポーツセンターで汗を流しています。一緒にバドミントンしませんか?

●昨年2月より上士幌商工会で勤務され、おもにインターネットで農業・商工製品等の販路拡大をされています。今季は月・木曜日に、スポーツセンターで汗を流されているそうです。是非、声をかけてあげて下さい。

(担当—齊藤)

再発見 地域の宝

シリーズ
その74

ひがし大雪博物館

ひがし大雪博物館は、「開道百年事業」の一環として、北海道からの補助金を受け、1970年に開館した歴史ある自然史博物館です。

開館15年目の1985年に大幅な展示替えを行っていますが、その後は諸般の事情から展示更新をしていません。したがって、現在の展示はすでに25年前のものであり、展示情報の一部や展示手法は若干古いものとなっていましたが、展示内容の豊富さは今も色あせることはなく、大雪山国立公園を中心とした自然について広く学ぶことのできる社会教育施設として機能しています。

館内は、大きくテーマの異なる3つの展示室から構成されています。



第一展示室のテーマは、大雪山国立公園の動植物です。大雪山国

立公園を特徴づける哺乳類や鳥類、昆虫、植物、地形、植生などについて、迫力あるジオラマや標本、写真パネルで詳しく解説しています。

第二展示室は昆虫の世界です。昆虫の進化やからだの仕組みなど昆虫を知るうえで基本的な部分から、人と昆虫とのかかわり等について解説しています。また、大雪山国立公園周辺の昆虫はもとより世界の昆虫の展示が充実しており、熱帯雨林を中心に生息する大型で美麗な昆虫標本は6,800点を超え、生物の多様性を肌で感じることができます。

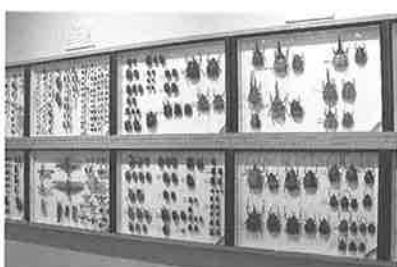
第三展示室は、大雪山国立公園のおいたちと嶋木遺跡から始まる人間の足跡、アイヌ文化に関して、模型やパネル、標本で解説しています。

博物館活動の主軸ともいえる調査研究および資料収集事業についても、博物館友の会の協力を得ながら継続して取り組んできており、それらをとりまとめ発刊される研究報告も32号を数えています。

教育普及事業にも開館以来積極

的に取り組んでいます。春の自然ウォッチングや夏の虫ウォッチングなどの各種観察会を毎年開催しているほか、研修会の受け入れ等を行っています。特に、自然案内人を育成することを目的に始めた自然観察ガイド養成講座は、今年度で21年目を迎えました。

このような特色ある展示や活動を続けるひがし大雪博物館も、入館者の減少や施設の老朽化等の問題を抱えており、現在、環境省により進められている、十勝三股・糠平集団施設地区整備事業の一環で、ぬかびら源泉郷に新たに建設される中核施設への、博物館機能の継承が検討されています。



一年間の気温差が五十度以上にもなるここ十勝では、それぞれの季節に応じた楽しみ方があります。冬真っ盛りの今は、スキー・スケート、わかさぎ釣りなど、雪や気温の低さを利用した活動が盛んです。

私が生まれ育った場所は道南地方ですから、屋外のスケートリンクは存在しませんでした。ところがある中学校の先生が、スケートリンクを作るぞと言いましたし、中学校のグラウンドにビニールシートを敷きました。一部分は凍り、それらしきものができたのですが、三日ほどで全部融けてしまいました。

十勝では、素晴らしいスケートリンクがたくさん造成されています。しかし、近年の異常気象で造成、維持管理が難しくなりつつきてているようです。

これからも十勝の冬を満喫できるように環境の維持に努めていくことが今求められているのです。

(中村 記)

委員長の一言